

全国家庭養護推進ネットワークとは

家庭養護とその関連分野の関係者相互のネットワークの構築・強化を図るとともに、実効性のある施策について、志ある方々が、それぞれの主体間の垣根や主義主張の相違を超え、横断的に交流、討議するプラットフォームとして設立したものです。

共同代表



相澤 仁
大分大学
福祉健康科学部
教授



潮谷 義子
社会福祉法人恩賜財団済生会 会長
社会福祉法人慈愛園 相談役
前熊本県知事



柏女 霊峰
淑徳大学
総合福祉学部
特任教授

我が国の社会的養護は、今、大きな転換期を迎えつつあります。

令和5年4月、こども家庭庁が発足し、社会的養護を含めたこども関係の政策がこども家庭庁に一元化されました。その子ども家庭庁において、現在、令和6年4月の改正児童福祉法施行に向けた準備作業が、実際の子ども養育現場からの声を含めた様々な意見、議論を踏まえて、鋭意進められています。

その中では、様々な新たな施策、事業が施行されるとともに、一つの大きな政策の流れとして、子どもたちへの「パーマネンシー保障」－狭義の社会的養護における特別養子縁組等の施策だけではなく、地域の子どもたち・子育て家庭に対する家族維持支援・家族再統合のための支援を積極的に行うことを含めた「パーマネンシー保障」が、強く打ち出されつつあります。

また、これまでのFLECフォーラムでも再三にわたり議論されてきた、子ども・子育て支援分野全体における人材の育成確保とそのための財源の問題は、こども家庭庁の最大の課題だと言っても過言ではありません。

このような、我が国の未来にとって最も重要な政策を、実際の子どもたちの養育の現場において推進していくためには、国の政策や予算、努力だけではなく、里親、ファミリーホーム、施設、児童相談所、民間養子縁組あっせん機関、フォスタリング機関、学会、行政、メディアなどの様々な関係者が相互のネットワークを構築・強化しながら、それぞれの現場で関係者が共通認識の下、密接に協力して具体的な対策に取り組むことが必要となります。そして、そのネットワークを、障害児施策や子育て支援施策、母子保健施策、学校教育等にも拡大し、連携と協働を深めていくことも、ますます重要性を増してきます。そのためには、こうした子ども関係の施策に携わる志ある方々が、広く参集し、理念や哲学だけではなく、人材や予算の確保も含めた実際の政策に繋げていくための議論を、可能な限り本音で率直に行うことができるような、プラットフォームが必要となります。

FLECフォーラムは、このような基本的認識の下に、すべての子どもたちに家庭での生活を（Family Life for Every Child: FLEC）という思いをこめて、2018年から毎年開催してきました。

今回が第6回目の開催となりますが、これもひとえに、「全国家庭養護推進ネットワーク」に設立発起人として集っていただいた各界各層の皆様、幹事や事務局としてフォーラムの運営に直接関わっていただいた皆様、登壇者の皆様、そして何よりも各回にご参加いただいた参加者の皆様のご支援とご協力があってこそです。そのことに深く感謝申し上げます。

さて、今年度のフォーラムでは、こども家庭庁発足と令和6年4月の改正児童福祉法施行を見据え、「あらためて、これからの家庭養護を考える」をメインシンポのテーマとしつつ、今回の児童福祉法改正や子ども家庭庁の発足を、どのようにして社会的養護を含めた子ども子育て施策全体の拡充に繋げていけばよいのか、行政や民間機関は、アドボカシーや人材育成をはじめとした様々な課題にどのように取り組んでいけばよいのか、を議論の中心においたプログラムを用意しました。

また、分科会においては、「子ども支援、親支援、親子関係支援を包括する親子包括支援に向けて」や「これからの里親制度について本音で語り合おう！」といったこれまで深く議論されてこなかった課題についても先駆的に取り上げ、率直な議論ができればと考えています。

さらに、クローズングシンポジウムでは、教育施策と社会的養護の連携と協働について、文部科学省や教育現場の方々を交え、実際の現場における連携がどれくらいできているのか、どのような課題・論点があるのか等について、掘り下げた議論が行われることを期待しています。

このネットワークとフォーラムが、わが国のすべての子どもたちの未来を切り拓く一助となることを切に願っております。